

誤嚥した義歯の摘出に頸部食道切開術を要した1例

富安 孝成 高山 成吉 平野 憲二
河原 一雅 二見喜太郎 有馬 純孝

福岡大学筑紫病院外科

要旨：食道異物の症例の多くは適切な消化管内視鏡による処置で摘出が可能である。しかし内視鏡での摘出が困難な症例や食道の穿孔を疑うような症例では早急な外科的処置が必要になる。本症例は70歳の女性で認知症を伴っていた。食事の際にブリッジのついた義歯を誤って嚥下し約1週間後に嚥下困難と胸痛を主訴に受診した。胸部単純レントゲンで胸骨上縁に義歯と思われる陰影を認め胸部CTでは下部食道の壁肥厚とその周囲に free air を認めた。緊急手術の適応となり左頸部切開アプローチで食道壁を穿通した義歯を摘出した。術後の胃管留置による誤嚥性肺炎の予防のため食道の減圧チューブを腹部から逆行性に留置し手術を終了した。術後の合併症はなく16日目に退院となった。

キーワード：食道異物, 義歯, 誤嚥, 食道穿孔